

はんこものがたり 六

月野允裕

縁起の良い印鑑とは

私の祖父や父は「縁起の良い印鑑を彫刻する」ことを理念にしている。お客様の一生の決断を左右する道具を作るといった責任からだ。ただ、綺麗に彫刻するのではなく、生まれた時の姓名画数や成功や愛情、住居など八方位の運勢をお客様から伺い彫刻する。吉相八方位という彫刻方法である。鎌倉時代の陰陽師の「安部有宗入道(安倍晴明の十代目の孫)」が人の判を判断し、その人の吉凶を占っていた。その存在や伝えが「徒然草 第二百二十四段」や「雑々拾遺」などにも記載されている。江戸時代に土御門家で学んだ野洲佐野の大聖密院盛典が「印判秘訣集」という本を享保の時代に発行し、反響を呼び、その後「名判精正録」、「名判集成」も発行された。近代でも姓名判断の元祖とも称される「五聖閣」熊崎健

翁が、その理論を確立させるのに一役買ったとも言われている。このように古来より印章には、目に見えない不思議な力があると捉えられて来た。

しかしながら、こういった印鑑の相や印鑑を持つだけで「人の運命」を捉えることは、現実的科学的ではないし、恐れ多いことでもある。では「縁起の良い印鑑とはどういったものなのか？」疑問を持ちながら、業を営んでいた時期があった。より歴史や文化、技法を理解し、技術を高めなければと思ひ、それぞれの専門家に直接お会いしお話を伺ったこともある。だが、私の中のモヤモヤは完全には解決されなかった。

そんな時、世界遺産にも認定されている神社の神

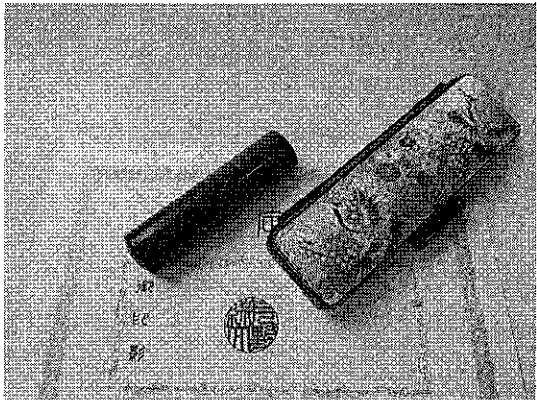


北条義時の花押

職の方と、たまたま縁があり、私の店に来店してくださいました。そこで言われた一言が今でも脳裏に焼き付いている。「君は何を目指しているのか？上に向かうのではなく、慎みを持って、

奥へ奥へと進みなさい。夫婦仲良く作る印鑑は、それこそが一番縁起が良い。」とおっしゃられた。その頃は、独立して業を営むことで精いつばいになり、本質を忘れていたのかもしれない。また、夫婦で切り盛りしていく中で、妻に強く言ってしまったり、時にはお店の奥で喧嘩をしてみましたりと、雰囲気が悪くなることもあった。本当にお客さまに喜んで貰える印鑑とは、彫刻方法や印鑑の相だけではない、お店の雰囲気や接客、私たちの考え方のものか、お客様に最も伝わるのではないかと強く思ったのである。

印鑑とは実に不思議なものである。洋服のように



時々買い換えるものではない。宝石のように身に付けて人に見せるものでもない。実印などは一生に一本、自分が死ぬまで持ち続ける「お守り」のようなものである。また亡くなってからも遺言書に押印した印影は残り続ける。ご両親やご祖父母から大切な贈り物として頂いた印。ご結婚を期に夫婦で一緒に選んだ印。大人になった証に自分で選んだ印。みなそれぞれの印鑑を宝物のように持ち続けている。そんな印鑑を彫刻させていただけけることはとても幸運に思えてくる。

上ばかりを見て焦るのではなく、日々の生活に感謝し、慎む心を持ちながら夫婦で協力して、印鑑を彫刻していく。そして、お客様に喜んで頂くことを信念としなければならぬと強く思う。それこそが本当に縁起の良い魂のこもった印鑑である。

(鎌倉はんこ代表)